

私が小学生だった頃、朝礼で毎月一度、校長先生のお話があり、それを立ったまま聞いている間に倒れる児童が毎年一人か二人いました。全校生徒100人程度の田舎の小学校で、誰が倒れたかすぐに分かるのですが、普段から青白い顔をしていませんでした。

みなさんの考える「貧血」とは、こんな感じだと思えます。しかし、医学的という貧血は、そうではありません。赤血球の中に存在する、酸素を運ぶヘモグロビンというタンパク質の濃度が低いことを貧血と言います。貧血の約7割は、ヘモグロビンの合成に必要な鉄分の欠乏によるものであり、その場合、鉄剤を投与します。しかし、治療よりも大切なのはその原因を調べることです。鉄分の摂取不足が原因のこともありますが、慢性的な

出血によって鉄分を失い貧血に陥ることも多く、原因を調べると、胃がんや大腸がん、子宮がんが見つかることがあります。血液検査結果表には、ヘモグロビンの正常値が載っていると思いますが、正常値であるかよりも、経時的な低下に注意することが大切です。健診などで定期的な血液検査を受けている場合、1年間にヘモグロビンが1以上低下していれば、がんなどの出血性疾患の可能性を考える必要があります。

鉄欠乏性貧血以外では、私たち血液内科医が治療を行う白血球や近年、高齢化に伴って増加している骨髄異形成症候群などがあり、いずれも放置すると致命的です。たかが貧血、されど貧血です。